

支えあい、助けあい

・・・福祉のコミュニティづくり

令和4年度

事業報告書

社会福祉法人

小樽市社会福祉協議会

目 次

はじめに	1
[1] 法人運営	
1. 理事会・評議会等の開催	2
2. 監査の実施	4
3. 広報活動	5
4. ふれあい相談	5
5. 苦情対応状況	6
[2] 地域福祉活動の推進	
1. 小地域ネットワーク活動の推進	7
2. 権利擁護事業	8
3. 在宅サービス事業の実施	13
4. フードドライブの実施	17
5. 「たるCAN!」の運営	17
6. 総合福祉センター等の管理運営	18
[3] 介護保険事業の推進	
1. たんぽぽ介護事業所	20
2. 銭函デイサービスセンター	24
3. 中部地域包括支援センター	26
[4] ボランティア・市民活動の推進	
1. ボランティアの相談、登録及び紹介	31
2. ボランティアの育成及び普及・啓発	31
3. ボランティア・市民活動に必要な調査、研究	33
4. ボランティア・市民活動団体への協力及び支援	33
5. ボランティア・市民活動関係団体との連携及び連絡調整	33
6. ボランティア保険の取扱い	34
7. その他ボランティア・市民活動に必要な事業	34
8. 点字図書館の運営管理	35
[5] 生活困窮者自立支援	
1. 相談支援事業	37
2. 就労支援事業	38
3. 生活困窮者自立支援資金貸付事業	38

4. 生活困窮者物資支援事業	-----	39
5. 令和4年度子育て家庭支援事業	-----	39
[6] 緊急生活救援資金等の貸付支援		
1. 緊急生活救援資金貸付事業	-----	40
2. 生活福祉資金貸付事業	-----	40
[7] 関係団体等の支援及び連携による活動		
1. 老人福祉活動への支援	-----	42
2. 町会への支援	-----	42
3. 災害遺児家庭及びひとり親家庭等への支援	-----	42
4. 社福懇関係事業	-----	42
[8] 共同募金運動への協力		
1. 赤い羽根共同募金運動	-----	43
2. 地域歳末たすけあい運動	-----	44
3. 過去5年の募金額の推移表及びグラフ	-----	44

はじめに

新型コロナウイルス感染症（以下、「コロナ感染症」という。）を見据えながら実施した事業の概要については、次のとおりです。

地域福祉活動のうち、給食サービスについては、配食数がコロナ感染症前の食数を上回りました。

特に、銭函地区の配食数が前年度比約20倍（32件⇒686件）と大きく増加した要因については、新たに、地域に2つの配食拠点ができたことによるもので、配食ボランティア数の増加が見込めない現状では、給食サービスのさらなる拡大を図るためには、未実施地区に配食拠点を設けるなど、配食方法を人から場所にシフトする検討が必要になるものと考えます。

また、除雪サービスについては、登録者数は横ばいではありますが、コロナ感染症の閉塞感から脱却を望むボランティア団体の活動がコロナ感染症前に戻り、ボランティアの参加人数は大きく増加しました。

これは、「たるCAN!アプリ」により利用者とボランティアのマッチングが容易になり、ボランティアポイント制度の活用も相まって増加につながったものと考えます。

また、昨年11月から開始したフードドライブは、食品ロスの削減や生活困窮者の支援につながる土台づくりの取組として、すでに実施をしている「社会福祉法人北海道済生会小樽支部」や「小樽市ひとり親と寡婦の会」と連携を図りながら、新たに着手したものです。

そのほか、成年後見事業については、相談件数が平成22年開設以来最多の593件と、昨年より166件増加となり、コロナ感染症が収束に向かう中、将来の漫然とした不安が相談につながっているものと思われまます。

次に、介護保険事業については、平成8年開設の銭函デイサービスセンターは多くの利用者に親しまれてきましたが、残念ながら昨年10月で閉鎖することとなり、利用者、家族をはじめ、介護関係者の皆様には、大変なご迷惑をおかけする結果となりました。

また、たんぽぽ訪問介護事業については、利用者の落ち込みによる厳しい経営状況が続いており、本会の管理職からなる検討委員会を立ち上げ、今後の改善策を検討することといたしました。

最後に、令和4年度当初はコロナ感染症の行動制限を受けながらの取組となったものの、その後、各事業の再開に向けて一歩ずつ着実に進めてまいりましたが、コロナ感染症の影響により、これまで以上に地域生活課題が複雑化・複合化しております。

本会としましては、社会福祉法人懇話会をはじめとした関係団体や地域住民などつながりを強め、地域生活課題の解決に取り組むことが重要な役割であると考えております。

[1] 法人運営

1. 理事会・評議員会等の開催

本年度は、理事会を7回(内、2回書面決議)、評議員会を3回(内、1回書面開催)、評議員選任・解任委員会を3回開催いたしました。各議案が慎重に審議され、原案どおり決定及び承認されました。会議の概要は、次のとおりです。

(1) 理事会の開催

概 要		議 案 等	
1	日時：4月27日(水) 会場：研修室 出席：理事8名 監事2名	《報告事項》 報告第1号 報告第2号 《議案事項》 議案第1号	銭函デイサービスセンターの存廃に関する経過について 事業等検討委員会の意見具申について 銭函デイサービスセンターの存廃について
2	日時：5月27日(金) 会場：研修室 出席：理事9名 監事2名	《報告事項》 報告第1号 《議決事項》 議案第1号 議案第2号 議案第3号 議案第4号 議案第5号 議案第6号 議案第7号 議案第8号	会長及び常務理事の職務執行状況について 令和3年度事業報告について 令和3年度各会計収支決算報告について 令和4年度第1回監事監査報告 嘱託職員及び臨時職員給与規則の一部改正(案)について 介護保険事業所運営規程の一部改正(案)について ・たんぼぼ指定訪問介護及び指定介護予防訪問介護事業所運営規程 ・たんぼぼ障がい者居宅介護事業所運営規程 ・たんぼぼ障がい者居宅介護地域生活支援事業運営規程 ・銭函デイサービスセンター運営規程 小樽・北しりべし成年後見センター運営委員の選任(案)について 評議員の候補者(案)について 令和4年第1回評議員選任・解任委員会の開催(案)について 令和4年第2回評議員会の開催(案)について
3	決議があったとみなされた日：10月11日(火) 書面決議による 同意回答：理事10名 監事2名	《議決事項》	評議員の候補者(案)及び評議員選任・解任委員会の開催(案)について
4	日時：10月28日(金) 会場：会議室 出席：理事7名 監事2名	《議決事項》 議案第1号	銭函デイサービスセンター退職者に係る退職慰労金の支給等について

5	日時：12月9日(金) 会場：研修室 出席：理事9名 監事2名	《報告事項》 報告第1号 報告第2号 報告第3号 《議決事項》 議案第1号 議案第2号 議案第3号 議案第4号	銭函デイサービスセンター拠点区分 積立資産の 用途について 監事監査報告 会長及び常務理事の職務執行状況について 令和4年度補正予算(案)について 令和5年度共同募金財源による事業及び予算(案) について 基本財産(建物)の処分(案)について 令和4年第3回評議員会の開催(案)について
6	決議があったとみなされ た日：2月15日(水) 書面決議による 同意回答：理事10名 監事2名	《議決事項》	評議員の候補者(案)及び評議員選任・解任委員 会の開催(案)について
7	日時：3月10日(金) 会場：会議室 出席：理事8名 監事2名	《報告事項》 報告第1号 《議決事項》 議案第1号 議案第2号 議案第3号 議案第4号 議案第5号 議案第6号 議案第7号	監事監査報告 令和5年度事業計画(案)について 令和5年度各会計収支予算(案)について 令和4年度徴収不能額の処理(案)について 社会福祉法人小樽市社会福祉協議会定款の一部変更(案) について 銭函デイサービスセンター廃止に伴う諸規定の一部改 正(案)について 銭函デイサービスセンター廃止に伴う規則及び規程の 廃止(案)について 令和5年第1回評議員会の開催(案)について

(2) 評議員会の開催

概 要		議 案 等	
1	日時：6月17日(金) 会場：研修室 出席：評議員10名 監事2名	《議決事項》 議案第1号 議案第2号	令和3年度事業報告について 令和3年度各会計収支決算報告について 令和4年度第1回監事監査報告
2	日時：12月23日(金) 会場：研修室 出席：評議員11 監事2名	《報告事項》 報告第1号 報告第2号 報告第3号 《議決事項》 議案第1号 議案第2号 議案第3号	銭函デイサービスセンターの廃止について 銭函デイサービスセンター拠点区分 積立資金の 用途について 監事監査報告 令和4年度補正予算(案)について 令和5年度共同募金財源による事業及び予算(案) について 基本財産(建物)の処分(案)について

3	決議があったとみなされた日：3月29日(水) 書面決議による 同意回答：評議員16名 監事2名	《報告事項》 報告第1号 《議決事項》 議案第1号 議案第2号 議案第3号 議案第4号	監事監査報告 令和5年度事業計画(案)について 令和5年度各会計収支予算(案)について 令和4年度徴収不能額の処理(案)について 社会福祉法人小樽市社会福祉協議会定款の一部変更(案)について
---	--	---	---

(3) 評議員選任・解任委員会の開催

概 要		議 案 等	
1	日時：6月3日(金) 会場：会議室 出席：委員3名 常務理事1名	《協議内容》	評議員の選任(案)について
2	日時：10月24日(月) 会場：会議室 出席：委員3名 常務理事1名	《協議内容》	評議員の選任(案)について
3	日時：3月6日(月) 会場：会議室 出席：委員3名 常務理事1名	《協議内容》	評議員の選任(案)について

2. 監査の実施

本年度は、監事による四半期毎の定例監査が4回行われました。概要については次のとおりです。

概 要		内 容
1	監事監査 日時：5月23日(月) 会場：会議室	令和4年1～3月までの各会計及び事業の執行状況と、令和3年度各会計決算及び事業報告について監査が行われ、適正に処理し、運営していることが認められた。
2	監事監査 日時：8月26日(金) 会場：会議室	令和4年4～6月までの各会計及び事業の執行状況について監査が行われ、適正に処理し、運営していることが認められた。
3	監事監査 日時：11月25日(金) 会場：会議室	令和4年7～9月までの各会計及び事業の執行状況について監査が行われ、適正に処理し、運営していることが認められた。
4	監事監査 日時：2月24日(金) 会場：会議室	令和4年10～12月までの各会計及び事業の執行状況について監査が行われ、適正に処理し、運営していることが認められた。

3. 広報活動

(1) 「社協だより」の発行

4月、7月、10月、1月の年4回、赤い羽根共同募金の助成を受けて発行しました。本会や共同募金委員会の事業計画、予算、事業報告、決算、各種事業のお知らせ、ボランティア活動の状況や情報などを掲載しました。

(2) ホームページ、Facebookの維持・更新

必要に応じて更新し、即時性の高い情報提供に努めているほか、求人情報を掲載しました。

(3) アプリケーションの維持・更新

令和元年9月に開設し、地域活動や社協事業について、随時、最新情報を更新しました。

※Webアプリケーション「たるCAN!」については別掲（17ページ）

(4) その他

各種行事や事務・事業について、随時、「広報おたる」への掲載及び報道機関等の協力を得て広報活動を行いました。

4. ふれあい相談

電話相談が延べ34件、来所相談が延べ6件、メールでの相談が延べ1件あり、関係機関と連携し適切に対応しました。相談内容等は、下表のとおりです。

表1 相談利用者延べ人数内訳

	計	相談者種別					相談方法		
		本人	地域住民	家族・親族	専門職	その他	電話	来所	メール
人数	41	27	9	3	1	1	34	6	1

表2 相談主訴別の内訳

	計	生活の不安	地域住民のこと	介護	見守り	除雪	その他
件数	41	15	5	4	3	3	11

表3 相談の処理状況

	計	社協内部で対応	外部機関等へ相談情報を提供		
			地域包括支援センター	行政	その他
件数	41	33	5	2	1

5. 苦情対応状況

本会で本年度中に受理した苦情はありませんでした。

◎ 役員(理事・監事)・評議員名簿 (令和5年3月31日現在)

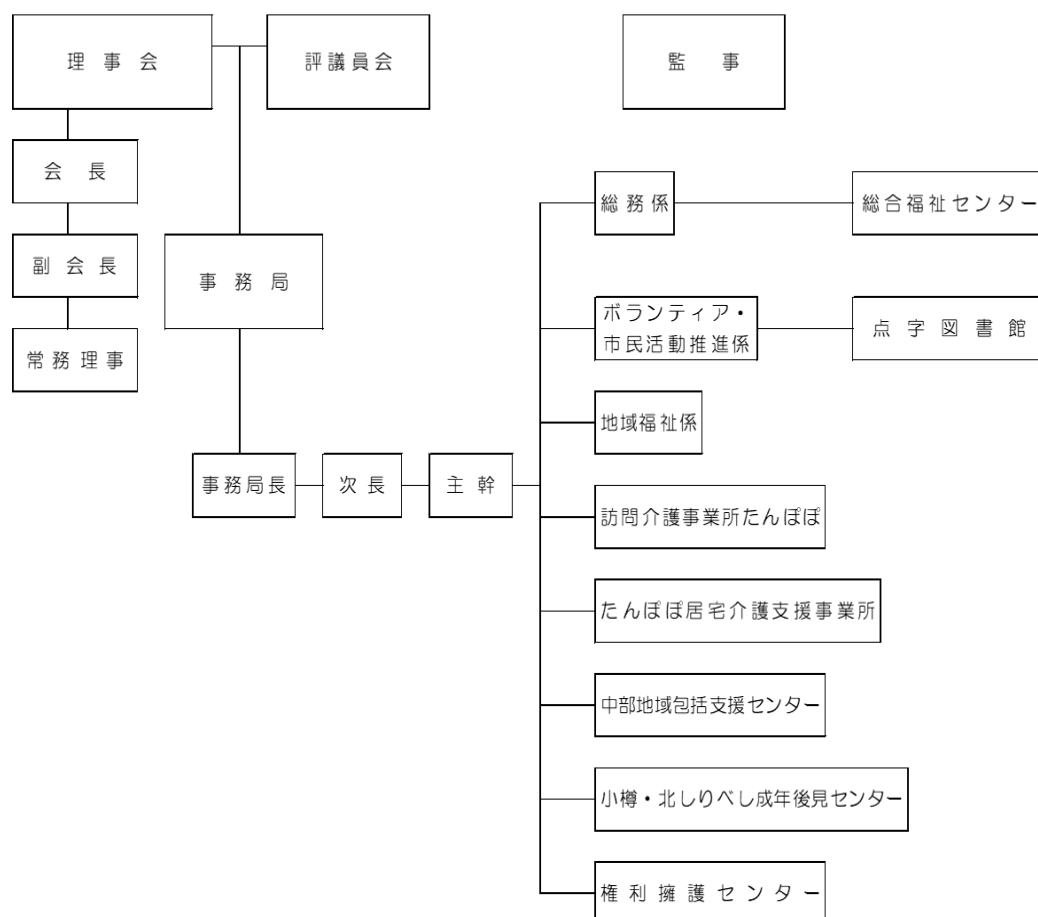
【理事】 会長 近藤 眞章
 副会長 山本 憲治
 山崎 範夫 山本 賢二 吉岡 宏幸 加藤 慎治 安部 俊克
 長川 修三 森田 信子 森 貴仁

【監事】 椎野 雅之 實原 保

【評議員】 西尾 伊都子 笠原 啓仁 浅田 勲 藤井 秀喜 佐々木 茂
 加藤 友一 田中 宏之 城 治子 伊藤 春竹 大坂 充功
 小野 直子 外園 光一 前田 正夫 津崎 郁江 星 功
 工藤 昭博

令和5年3月31日現在

組 織 図



[2] 地域福祉活動の推進

1. 小地域ネットワーク活動の推進

高齢社会において、単身世帯や閉じこもりがちな高齢者等が増加していることから、本会では、住民が地域とつながりを持つための場として「小地域活動」の支援に取り組んでまいりました。

本年度もコロナ感染症の影響で、小地域活動も縮小せざるを得ない状況が続きましたが、さまざまな工夫をしながら高齢者の見守り活動、地域住民向けサロンや子ども食堂を開催した12団体に対し、助成金を交付いたしました。

(1) 令和4年度小地域ネットワーク活動助成事業の助成団体

1	蘭島ふれあいネットワーク	7	花園東3丁目連合会
2	な〜んとなく楽しむ会	8	ジェルム・金曜日の会
3	桂岡町内会女性部	9	ばあばのうちごはん(ひだまり)
4	ふれあいサロン 狸庵	10	社会福祉NPO団体「つむぎ」
5	入船六三町会	11	そばカフェ
6	とよかわ喫茶 和み	12	ビストロこんにち輪

(2) 過去5年間の小地域ネットワーク活動助成額推移

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
助成団体数	14	12	12	12	12
助成金額(円)	800,000	651,000	660,000	580,000	540,000

2. 権利擁護事業

(1) 成年後見事業

① 相談事業

累計		平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
相談方法	電話	270	256	330	331	457
	来所	130	83	85	73	71
	訪問	54	50	25	23	65
相談者	本人	50	30	32	20	42
	家族	138	90	142	89	113
	知人	33	19	7	6	6
	施設他	250	269	271	326	451
分野別	認知症	257	166	210	233	225
	精神	33	55	50	48	110
	知的	40	19	32	25	39
	他不明	131	153	157	122	222
相談内容	法定後見関連	256	227	267	213	254
	任意後見	33	19	21	15	22
	日自	80	80	91	113	123
	あんしん	66	59	69	68	115
	他	72	69	70	66	160
相談結果	親族申立支援	101	73	129	86	89
	市町村長申立支援	41	59	56	43	62
	日自	34	32	70	99	98
	あんしん	44	36	47	60	89
	他	257	226	201	178	316
相談対象者居所	余市町	24	29	15	14	45
	仁木町	4	10	2	2	5
	赤井川村	0	0	2	0	7
	古平町	0	0	2	0	3
	積丹町	2	1	0	0	1
	小樽市	376	317	359	387	489
	他	46	32	60	24	43
対象者年齢	65歳未満	52	49	58	75	98
	65歳以上	358	306	340	320	455
	他・不明	42	34	42	32	40
相談総数		452	389	440	427	593

※相談方法等の件数は重複あり。

相談件数はセンター開設以来最多の593件になり、前年に比べて166件増加しています。

相談方法の割合は、電話の最多は変わりませんが、訪問件数が増えています。

相談者は前年度と大きな変化はなく、施設等職員、介護支援専門員、金融機関等の件数が大きな割合を占めています。

相談分野も相談内容も、その他の割合が増えており、将来の漠然とした不安で相談する人が増えている可能性も考えられるので、今後も傾向をみていきたいと考えています。

地域別は小樽市在住者が件数は増加していますが、5町村在住者の占める割合がそれ以上に増加しています。

相談結果はその他が増え、相談の幅が既存の制度以外にも広がっていることがわかります。

② 市町村長申立て手続きに関する支援事業及び法人後見・後見監督等の受任

法人後見受任状況 (受任者内訳)

類型	件数
後見	38
保佐	8
補助	1
合計	47

申立人	件数
市町村長	37
親族	8
本人	2
その他	0
合計	47

住所地	件数
小樽市	40
余市町	1
仁木町	2
赤井川村	1
古平町	1
積丹町	1
その他	1
合計	47

	令和4年度	累計(H22~)
新規受任	6	119
辞任者数	0	1
死亡者数	8	71

市町村長申立て	小樽	その他
4	4	0

市町村長申立て件数は4件で、いずれも小樽市でした。

法人後見として、6件を受任(後見類型5件、保佐1件)しましたが、8名の方が亡くなられ、年度末の受任件数は47件となり、年度当初から2件減になりました。

③ 市民後見人の養成

	開催日	場所	参加人数
市民後見人養成講座	令和4年11月8日 令和5年2月27日、28日、3月1日	小樽市生涯学習プラザ	新規9名 うち登録6名
フォローアップ講座	令和4年7月14日、9月14日 令和5年3月17日	小樽市総合福祉センター4階	のべ53名
ほたるの会企画講座	なし	コロナ禍のため、中止。	なし

市民後見人養成講座を実施し、新規で9名の受講があり、うち6名が市民後見人として登録しました。

また、フォローアップ講座はコロナで中止になることもありましたが、令和4年度で3回開催しました。

(2) 日常生活自立支援事業

北海道社会福祉協議会から業務委託を受け、認知症等により判断能力の不十分な方が、地域で自立した生活を送ることができるよう圏域6市町村社協の広域事業として実施しています。

① 相談支援

		平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
分野別	認知症	29	22	51	70	64
	知的	20	1	11	1	9
	精神	16	20	21	17	32
	他不明	15	20	31	24	30
相談結果	制度説明	33	5	2	10	3
	初回相談受付	21	25	33	30	43
	その他	26	33	79	72	89
地域別	余市町	10	10	10	8	21
	仁木町	0	0	0	0	0
	赤井川村	0	0	0	0	0
	古平町	0	0	0	0	2
	積丹町	0	0	0	0	0
	小樽市	70	53	104	104	112
相談総数		80	63	114	112	135

相談件数は昨年よりも増加しています。過去5年間を比べるとばらつきはありつつも増加傾向であることが読み取れます。

分野別では認知症が最多になっています。

相談結果についてはその他が増加しており、地域別については小樽市以外では相談のある町村が限られている状況です。

② 日常生活自立支援事業契約数

	令和4年度契約数	(サービス内訳)			【参考】令和3年度契約数		新規		解約		継続(令和4年度末)	
		福祉サービス	日常的金銭管理支援	書類預かりサービス	小樽市	余市町	小樽市	余市町	小樽市	余市町	小樽市	余市町
認知症	13	13	13	13	8	0	5	2	4	0	7	2
知的	6	6	6	6	8	0	0	0	0	0	6	0
精神	5	5	5	5	4	0	2	0	0	0	5	0
計	24	24	24	24	20	0	7	2	4	0	18	2

全ての利用者が選択サービスである日常的金銭管理支援と書類等預りサービスを利用しています。

③ 生活支援員の養成

名称	開催日	場所	参加人数
生活支援員養成講座	令和4年9月26日、27日、29日	26日(古平町)、27日(仁木町)、29日(小樽市)	のべ43名 うち登録16名

令和4年度は古平町、仁木町、小樽市の3カ所で生活支援員養成講座を実施しました。延べ43名が参加し、うち16名が生活支援員として登録しました。

(3) あんしんサービス事業

日常生活自立支援事業と同様の対象者で、同事業の条件に合わず利用できないケースを対象に、本会が独自事業として実施しています。

① 相談支援

		平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
分野別	認知症	-	-	-	-	65
	知的	-	-	-	-	12
	精神	-	-	-	-	23
	他不明	-	-	-	-	29
相談結果	制度説明	17	6	1	5	2
	初回相談受付	12	17	25	24	26
	その他	30	26	30	46	101
地域別	余市町	2	6	3	2	8
	仁木町	0	2	0	3	0
	赤井川村	0	0	0	0	0
	古平町	0	0	0	0	0
	積丹町	0	0	0	0	0
	小樽市	57	41	53	70	121
相談総数		59	49	56	75	129

相談件数は昨年よりも激増しています。過去5年間を比べても令和4年度の相談数が突出しています。これが単年のみの現象なのか、今後も続くのか令和5年度以降の推移をみる必要があります。

相談結果についてはその他が増加しており、相談のリピーターが増えている状況が伺えます。

② あんしんサービス事業契約数

	令和4年度契約数	（サービス内訳）			【参考】令和3年度契約数		新規			解約			継続（令和4年度末）		
		福祉サービス利用支援	日常的金銭管理支援	書類預かりサービス	小樽市	余市町	小樽市	余市町	赤井川村	小樽市	余市町	赤井川村	小樽市	余市町	赤井川村
認知症	24	24	24	24	15	1	11	0	1	5	1	0	17	0	1
知的	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
精神	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
計	25	25	25	25	16	1	11	0	1	5	1	0	18	0	1

全ての利用者が選択サービスである日常的金銭管理支援と書類等預りサービスを利用しています。

3. 在宅サービス事業の実施

(1) 小樽市独居高齢者等給食サービス事業

小樽市から受託し、地域のボランティアの協力のもとに、65歳以上の単身世帯や高齢者のみの世帯等への見守りを兼ね、毎週金曜日にお弁当をお届けしました。

地域特性に応じて、「ボランティアの訪問による戸別配食」と「ボランティアが運営する拠点に利用者が弁当を取りに行く」という2通りの方法で、本事業の目的である地域の見守りを推進しました。

各地域のボランティアから利用者へ栄養バランスの取れたお弁当を手渡すことにより、高齢者世帯等の日常的な見守りと地域社会のつながりを深める効果を生み出しています。

① 本年度の実施概要

- 配食日 : 毎週金曜日（夕食）
 - 配食回数 : 51回
 - 登録地区 : 市内31ヵ所（稲穂第二地区：配食実績はないが休止中の登録者あり）
 - 配食ボランティア : 53名（年度内に活動実績があった人数）
 - 配食数 : 8,596食（前年度比473食増）
- 地区別配食数

	地区名	令和3年度	令和4年度	増減(△)		地区名	令和3年度	令和4年度	増減(△)
1	豊川地区	149	238	89	17	オタモイ3丁目地区	102	87	△15
2	豊川「ギャベ」	15	26	11	18	松ヶ枝地区	176	200	24
3	稲穂第一地区	362	357	△5	19	新富地区	16	20	4
4	稲穂第二地区	0	0	0	20	高島ハクリン商会	48	46	△2
5	稲穂第四地区	359	348	△11	21	長橋3丁目地区	102	97	△5
6	花園西4丁目地区	0	78	78	22	みどり茶房	590	493	△97
7	奥沢中央地区	153	151	△2	23	緑地区	221	263	42
8	若竹地区	18	0	△18	24	富岡地区	442	542	100
9	蘭島地区	1,191	1,067	△124	25	東雲地区	493	520	27
10	東小樽地区	554	581	27	26	相生地区	586	589	3
11	砂和地区	20	16	△4	27	色内地区	432	328	△104
12	奥沢本地区	102	76	△26	28	天神地区	102	121	19
13	長橋1丁目地区	0	10	10	29	信香地区	365	232	△133
14	長橋5丁目地区	546	454	△92	30	入船地区	40	20	△20
15	新光狸庵	777	801	24	31	銭函地区	32	686	654
16	若竹住宅	51	121	70	32	梅ヶ枝地区	79	28	△51
合 計							8,123	8,596	473

② 運営委員会の開催

日 時 等	議 題 等
開催日：6月24日(金) 会 場：総合福祉センター 出席者：運営委員9名	・令和3年度 給食サービス事業報告及び決算について ・令和4年度 給食サービス事業計画及び予算について ・その他

③ 配食関係者交流会

商大生による合同会社 PoRtaru (ポータル) が運営するシェアハウス「Tug-B」(タグビー)を会場として、下記のとおり配食関係者交流会を実施しました。

交流会をきっかけとして、令和5年度から同じ町内の花三サロンを新たな拠点とし、配食のスタートが決まりました。

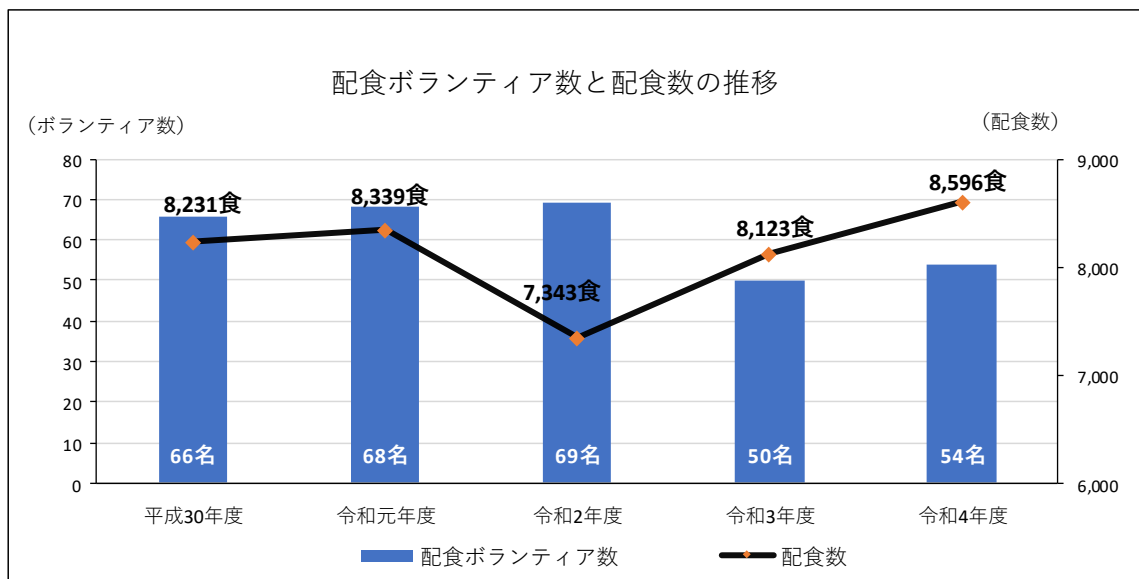
- 開催日程 令和4年9月28日(水)
- 会 場 Tug-B(小樽市花園3-1-5)
- 内 容 給食サービス事業、ボランティア募集の説明
持ち帰り形式による弁当の試食
- 参加人数 20名

④ 利用者への配布物について

お弁当に添えて、以下の配付物を利用者へお渡ししました。

- ボランティアグループ「すみれ会」が作成した季節感あふれる絵手紙(7回)
- 小樽食生活改善協議会が発行する健康レシピチラシ(1回)
- 小樽警察署作成の特殊詐欺被害注意喚起リーフレット(3回)

⑤ 年度ごとの配食ボランティアと配食数の推移



● 年度ごとの登録地区数と登録者数の推移

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
登録地区数	29	28	30	32	31
登録者数	238	224	230	232	230

(2) 福祉除雪関係事業

民生児童委員及びボランティアの皆様のご協力のもと、高齢、障がいなどにより自力での除雪や屋根の雪下ろしが困難な世帯（市民税所得割非課税世帯に限る）に対し、事業を実施いたしました。

令和 4 年度の登録世帯は 700 世帯となり、前年度から 19 世帯増加しました。各事業及び運営委員会の実施内容は、次のとおりです。

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
登録世帯数	680	662	647	681	700

① 福祉除雪サービス事業

昭和 53 年度から、高齢者世帯等の日常生活の安全確保を目的として、ボランティアの協力のもとに実施しています。

本年度も、1 世帯につき最大 3 回、玄関先から公道までの生活路の確保と、事故の未然防止のための窓周辺等の除雪を行いました。福祉除雪実施回数は延べ 186 回となりました。

本年度から、「たる CAN! アプリ」の活用により、ボランティアの募集から活動申し込みまで、スマートフォンで完結できるようになりました。これにより、昨年度よりも迅速にボランティアを募集できるようになり、令和 3 年度と比較し約 60 名増と、多くの方にご参加いただくことができました。

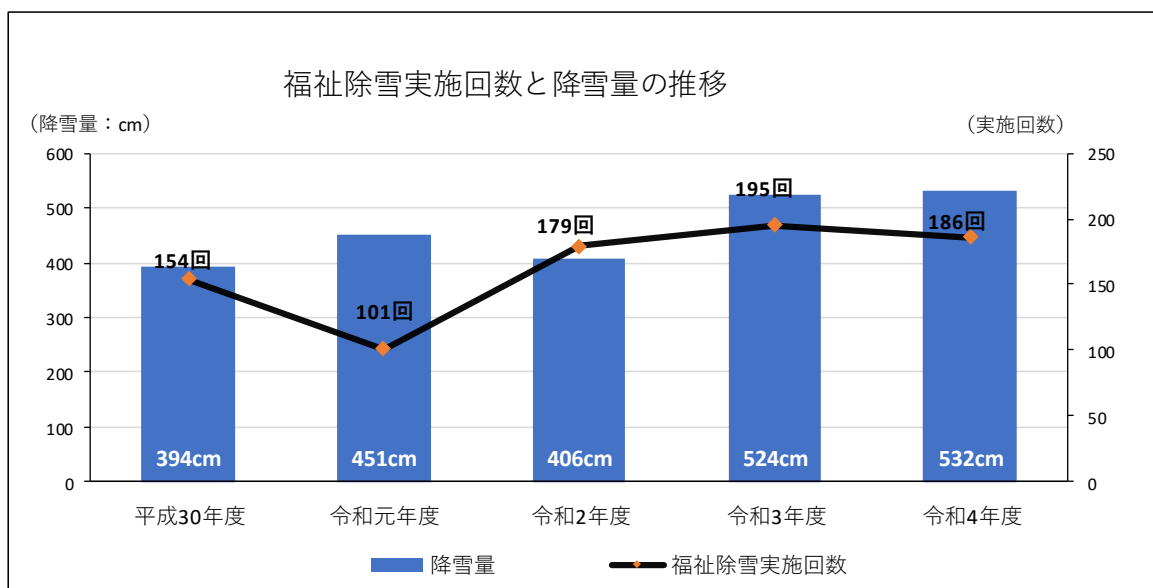
● 福祉除雪実施回数（実施主体別）

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
ボランティアによる除雪 （社協職員が同行）	40	11	2	43	34
職員による除雪	95	84	169	147	148
業者による除雪	19	6	8	5	4
計	154	101	179	195	186

● ボランティア参加人数・団体数（延べ）

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
ボランティア参加人数	89	8	1	35	96
ボランティア参加団体数	6	0	0	3	8

● 年度ごとの福祉除雪実施回数と降雪量の推移



② 屋根雪下ろし助成事業

平成 18 年度から、高齢世帯等の冬期間の生活支援を目的として、実施しています。本年度も、ひと冬 10,000 円を上限として、377 世帯に対し屋根の雪下ろし費用を助成しました。

● 助成世帯数及び助成額

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
助成世帯数	363	135	265	422	377
助成金額 (円)	3,553,380	1,294,506	2,577,600	4,180,410	3,350,125

③ 運営委員会の開催

日 時 等	議 題 等
開催日：7月1日(金) 会 場：総合福祉センター 出席者：運営委員 7 名	<ul style="list-style-type: none"> ・令和 3 年度事業報告及び収支決算について ・令和 4 年度事業計画及び収支予算について ・その他

4. フードドライブの実施

令和4年11月より、食料品ロスの削減と困窮者支援等を目的として、家庭等で余剰となった食料品を提供いただき、関係団体を通じて必要とされる方々へ配付するフードドライブを開始しました。

提供いただいた食料品は、小樽市福祉総合相談室「たるさぼ」や小地域ネットワーク活動団体等の関係団体を通じ、支援を必要とされている方々へ配付いたしました。

また、「小樽市ひとり親と寡婦の会」と共同で、「おたるたすけあいフードバンク」と題した食料品にお困りの方を対象とした支援イベントを2月と3月に開催しました。本イベントでは参加者59名の方へお米を配付いたしました。

今後も市内で同様の活動を行っている「北海道済生会」、「小樽市ひとり親と寡婦の会」と連携しながら、活動を展開してまいります。

(1) フードドライブ実施状況

提供いただいた件数（企業・団体・個人を含む）	59件
提供した団体数（延べ）	21団体

5. 「たる CAN!」の運営

Webアプリケーション「たる CAN!」（以下、たる CAN!アプリ）を運営し、小樽市内の地域活動・ボランティア活動を支援しました。

「たる CAN!アプリ」を通じ、各ボランティア団体の活動PR、イベントの参加者募集等を適時行ったほか、福祉除雪ボランティアなど本会が実施するボランティア活動やボランティアポイントの周知など、多岐にわたる情報の発信をスムーズに実施することができました。

また、スマートフォンの操作に不慣れなボランティア団体の方などにも、有効にアプリを活用していただくことを目的として、下表のとおり「たる CAN!アプリ」の使い方講座を開催しました。

日時等	内容
開催日：11月12日(土) 会場：総合福祉センター 参加者：19名	・アプリ「たる CAN!」でできることについて ・ログイン・操作方法について ・団体情報更新方法について ほか

6. 総合福祉センター等の管理運営

総合福祉センター及び福祉バスの管理運営について、平成18年度から指定管理者制度が導入されました。本会は小樽市から指定を受けた指定管理者として、条例に従い効率的な管理運営を行いました。

総合福祉センターは、老人福祉センターで入浴・囲碁・将棋・老人サークルの健康マージャン等多数の高齢者のレクリエーションとして利用がありましたが、ここ数年コロナ感染症の影響により制限されてきました。

令和4年度は囲碁・将棋などが再開したことから前年度と比較し、利用人数、回数とも大きく増加しました。

総合福祉センターの利用状況

区分	令和3年度		令和4年度		増減	
	延べ人数	回数	延べ人数	回数	延べ人数	回数
老人福祉センター	3,098		6,284		3,186	0
とみおか児童館	2,262				-2,262	0
入浴	3,055		5,302	98	2,247	98
身障関係	49	5	88	10	39	5
母子関係	42	5			-42	-5
社協関係	468	38	788	76	320	38
老人サークル	275	56	414	81	139	25
老人関係	395	21	388	24	-7	3
老壮大学	2,441	224	3,958	365	1,517	141
点字図書館関係	3,357	190	5,371	312	2,014	122
その他福祉団体	627	58	88	10	-539	-48
夜間開放	6	1	82	5	76	4
高齢者及びふれあい相談	76	76	41	38	-35	-38
ボランティア関係	239	35	770	117	531	82
合計	16,390	709	23,574	1,136	7,184	427

老人サークルの利用状況

区分	令和3年度		令和4年度		増減	
	延べ人数	回数	延べ人数	回数	延べ人数	回数
俳句研修会						
舞踏教室						
書道教室			201	38	201	38
囲碁大会						
将棋大会						
五三句会						
特書研	172	36	72	11	-100	-25
絵手紙	50	13	70	18	20	5
銀の鈴	18	2	62	7	44	5
健康マージャン			315	23	315	23
海鳴りコーラス			0	0	0	0
合計	240	51	720	97	480	46

※舞踏教室・五三句会は、講師の都合で休講

福祉バス運行状況

令和4年度

車名	利用日数	利用回数	内訳		走行距離(km)	利用人数
			市外	市内		
大型	68	68	3	65	9,750	1,442
みどり2号	210	210	3	207	6,621	4,033
合計	278	278	6	272	16,371	5,475

令和3年度

車名	利用日数	利用回数	内訳		走行距離(km)	利用人数
			市外	市内		
大型	14	14	2	12	1,210	309
みどり2号	196	196	1	195	4,370	3,825
合計	210	210	3	207	5,580	4,134

小樽市ひとり親と寡婦の会の利用状況

今年度の利用実績はありませんでした。

[3] 介護保険事業の推進

介護保険事業は、経営悪化から銭函デイサービスセンターを令和4年10月31日で廃止しました。また、たんぽぽ訪問介護事業所も収支が悪化しており大変厳しい状況になっていることから、今後、経営改善に向けた内部の検討会等を持ち、建直し策を検討してまいります。

小樽市生活支援体制整備事業（第2層生活支援コーディネーター業務）は、コロナ感染症の影響により、前年度同様に計画していたさまざまな事業の実施が難しい状況ではありましたが、モデル地区としてご協力いただいた石山町において移動支援事業を試行するなど、地域の支え合い活動のさらなる推進に取り組みました。

1. たんぽぽ介護事業所

- ・訪問介護事業においては、要介護度や障害支援区分が高く利用回数が多い利用者の入所
- ・入院等に伴い、ホームヘルパーの派遣時間で対前年比、訪問介護が22.1%、第1号訪問介護事業が4.3%、障害福祉サービス事業で10.0%減少しました。

ホームヘルパーの増員及び関係機関との連携などにより利用者の増加を図り、地域に必要とされる事業所を目指すとともに、事業の推進体制を見直すなど経営基盤の強化に努めます。

(1) 訪問介護事業

① 訪問介護事業

表1 ホームヘルパー派遣実績（訪問介護）

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年比
件数	8,611	7,672	7,366	6,589	5,232	79%
派遣時間	9,141.5	8,279.0	7,856.5	7,053.5	5,492.2	78%

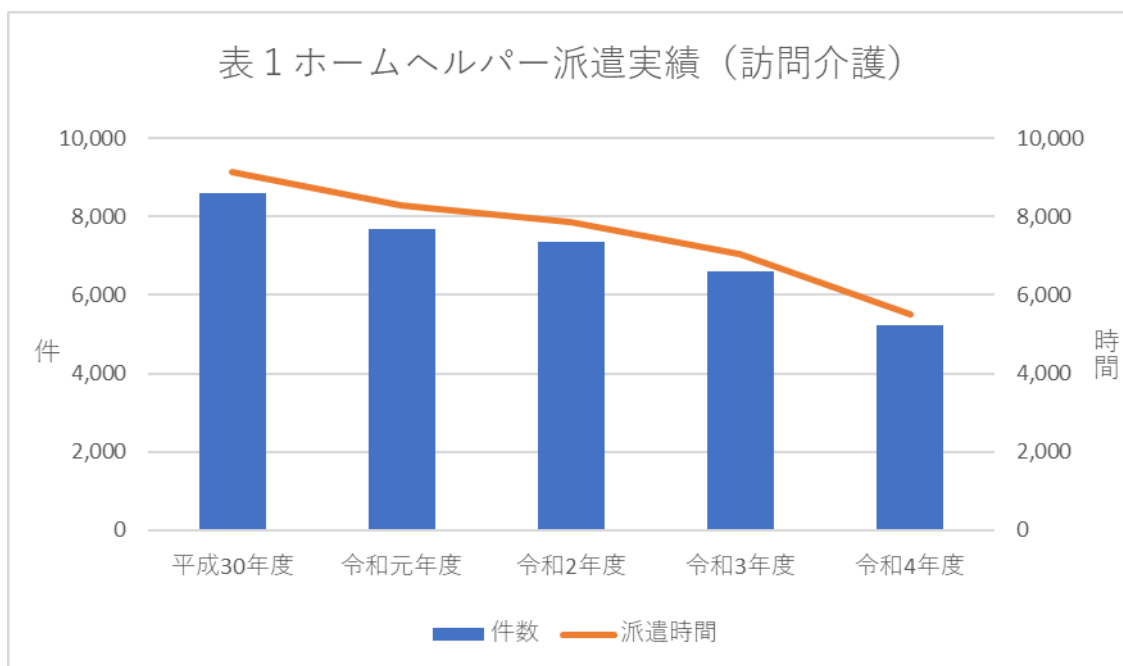


表2 ホームヘルパー派遣実績（第1号訪問介護事業）

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年比
件数	4,973	3,998	3,459	3,221	3,063	95%
派遣時間	4,968.5	3,997.0	3,458.3	3,221.0	3,081.1	96%

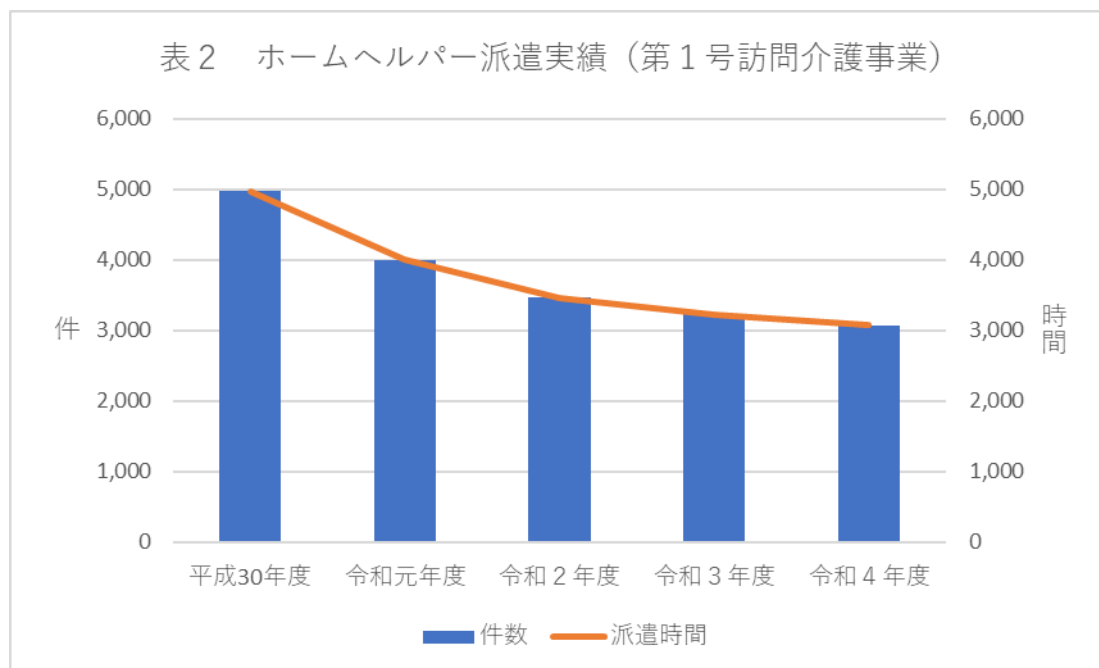
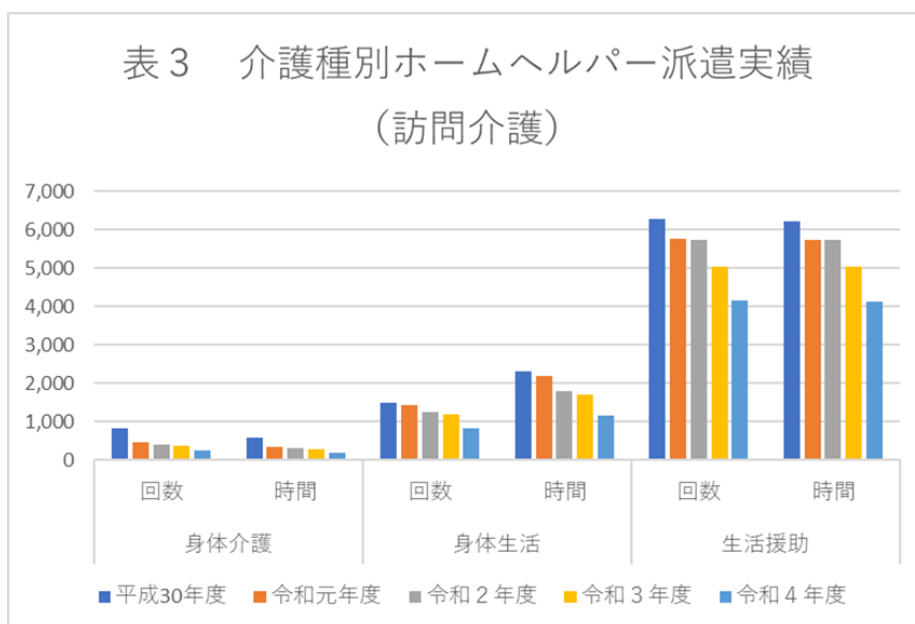


表3 介護種別ホームヘルパー派遣実績（訪問介護）

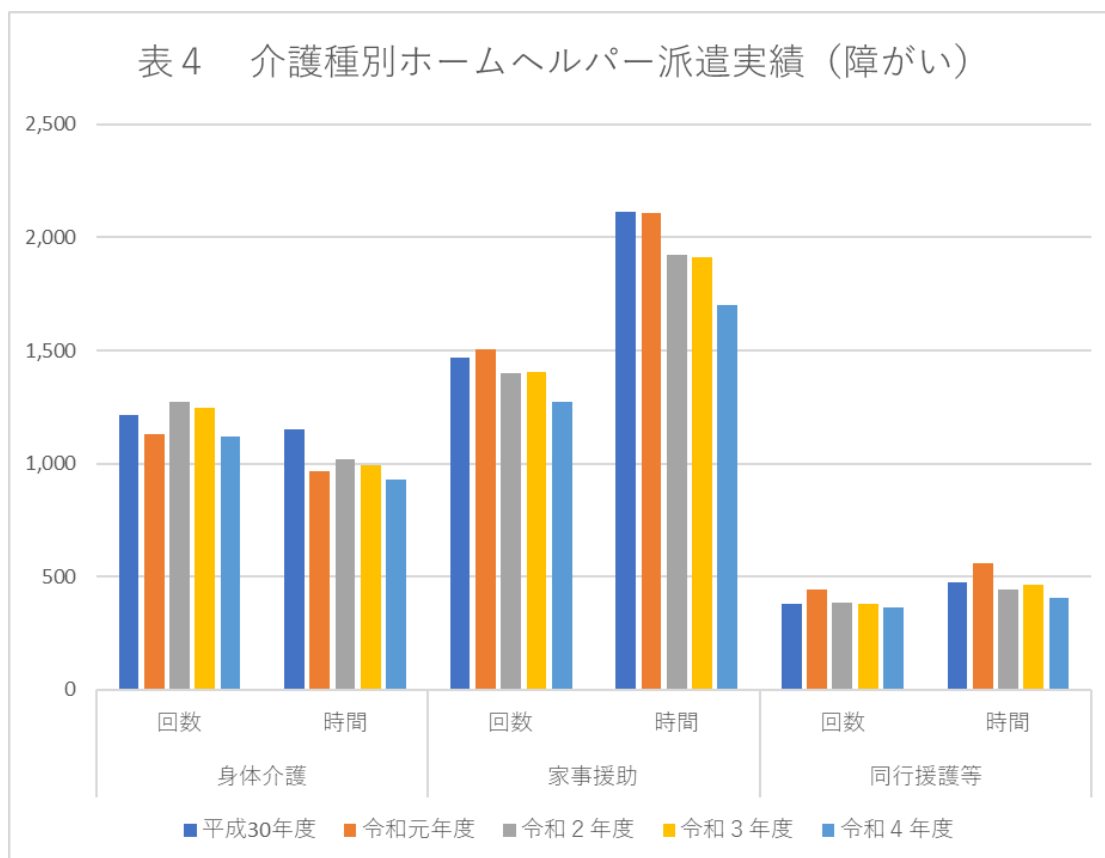
		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年比
身体介護	回数	822	452	390	374	266	71%
	時間	597.0	351.5	321.0	296.0	199.0	67%
身体生活	回数	1,500	1,442	1,247	1,184	819	69%
	時間	2317.0	2184.5	1806.5	1706.5	1151.6	67%
生活援助	回数	6,289	5,778	5,729	5,031	4,147	82%
	時間	6227.5	5743.0	5729.0	5051.0	4141.6	82%



② 障害福祉サービス事業

表4 介護種別ホームヘルパー派遣実績

		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年比
身体介護	回数	1,214	1,132	1,271	1,247	1,120	90%
	時間	1153.5	965.0	1021.0	993.0	927.6	93%
家事援助	回数	1,468	1,505	1,400	1,405	1,274	91%
	時間	2115.5	2107.8	1923.5	1913.8	1702.4	89%
同行援護等	回数	381	442	387	381	362	95%
	時間	476.0	561.0	445.5	463.5	406.0	88%
合計	回数	3,063	3,079	3,058	3,033	2,756	91%
	時間	3,745.0	3,633.8	3,390.0	3,370.3	3,035.9	90%



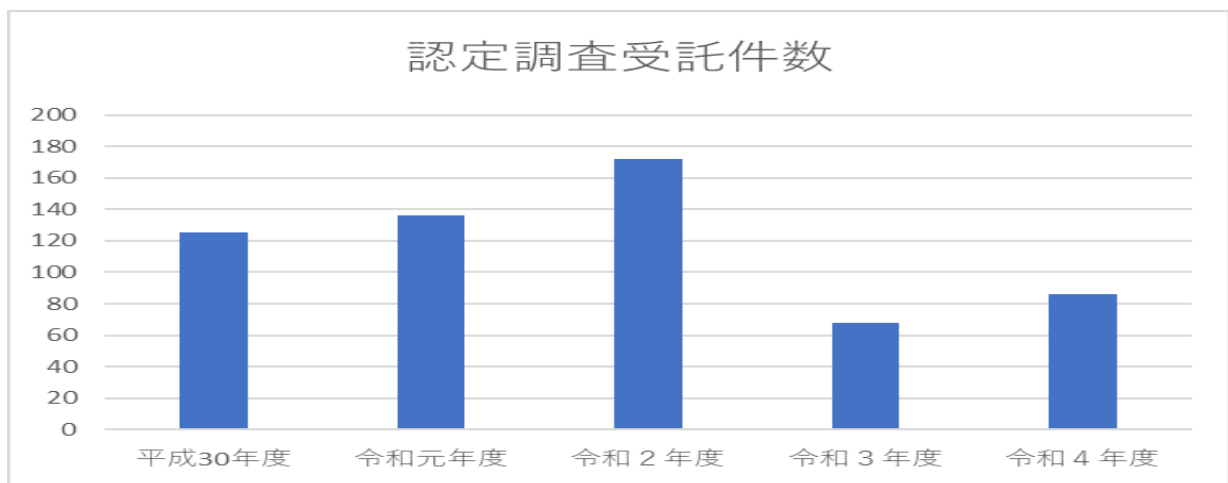
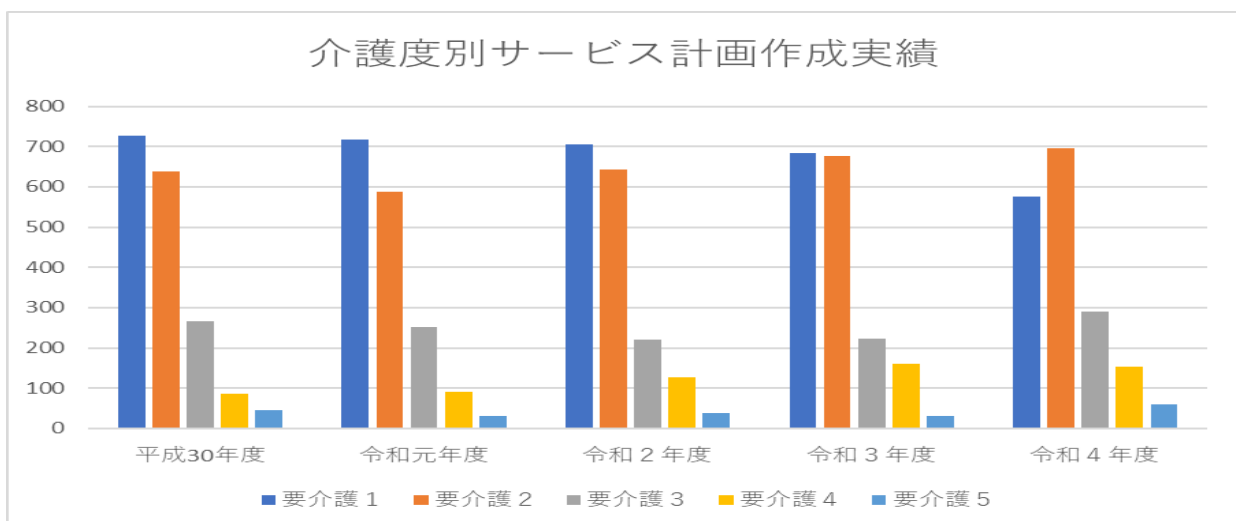
(2) 居宅介護支援事業

・居宅介護支援事業においては、支援件数は月平均148件で、サービス計画の総件数は前年比2件の減少となりました。認定調査受託件数は、小樽市、他市町村含め86件（月5～10件）で、支援件数を見ながら受託しています。

今後も事業所内で定期的な検討会を行い、他職種とも連携し、資質向上を図るように努めます。

介護度別サービス計画作成実績、認定調査受託件数

	平成30年度	令和元年度	前年比	令和2年度	前年比	令和3年度	前年比	令和4年度	前年比
要介護1	726	718	99%	706	98%	684	97%	575	84%
要介護2	639	587	92%	642	109%	676	105%	695	103%
要介護3	267	252	94%	221	88%	223	101%	290	130%
要介護4	87	92	106%	128	139%	161	126%	153	95%
要介護5	46	31	67%	38	123%	31	82%	60	194%
認定調査	125	136	109%	172	126%	68	40%	86	126%



2. 銭函デイサービスセンター

令和4年10月31日に廃止になりました。これまでの事業は以下のとおりです。

(1) 通所介護・総合事業（第1号通所介護事業）

① 利用者の状況

表1 利用状況

月	平成30年度			令和元年度			令和2年度			令和3年度			令和4年度（4月～10月）					
	要介護	要支援	合計	要介護	要支援	合計	要介護	要支援	合計	要介護	要支援	合計	要介護	対前年比	要支援	対前年比	合計	
利用延べ人員	4,202	450	4,652	4,876	368	5,244	4,139	366	4,505	3,009	306	3,315	1,482	49.3%	171	55.9%	1,653	
利用実人員	69	7	76	69	7	76	62	6	68	47	10	57	33	70.2%	5	50.0%	38	
要支援・要介護度	要支援1		46		51	51		61	61		93	93			46	49.5%	46	
	要支援2		401		315	315		305	305		212	212			124	58.5%	124	
	介護度1	1,452		1,452	1,488		1,488	1,451		1,451	916		916	352	38.4%			352
	介護度2	1,392		1,392	1,671		1,671	1,178		1,178	1,021		1,021	536	52.5%			536
	介護度3	762		762	1,108		1,108	986		986	745		745	337	45.2%			337
	介護度4	456		456	379		379	366		366	162		162	189	116.7%			189
	介護度5	133		133	227		227	146		146	158		158	68	43.0%			68
登録人員	45	6	51	50	5	55	45	5	50	34	6	40	29	85.3%	6	100.0%	35	
新規登録	34	7	41	17	3	20	15	1	16	12	5	17	2	16.7%			2	
登録廃止	23	9	32	20	3	23	19	1	20	13	3	16	3	23.1%	1	33.3%	4	
開設日数	306			309			308			305			183					
一日平均利用人員	13.7	1.5	15.2	15.8	1.2	17.0	13.4	1.2	14.6	9.9	1.0	10.9	8.1	81.8%	0.9	93.4%	9.0	

※上記表中「利用実人員」の欄「33」と「5」は、年度内の利用者実数です。

「登録人員」の計欄「29」と「6」は、登録人員の月の平均人数です。

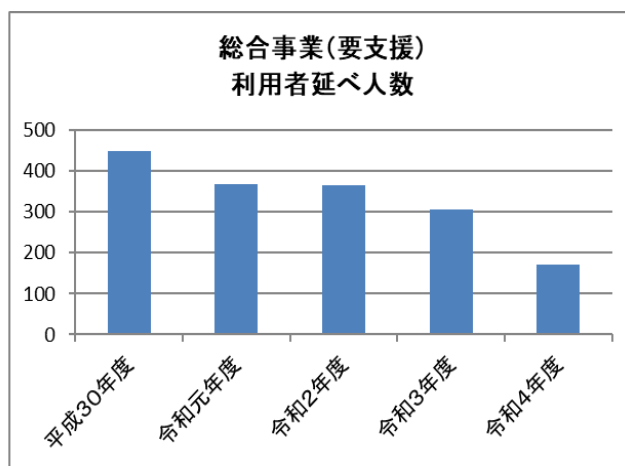
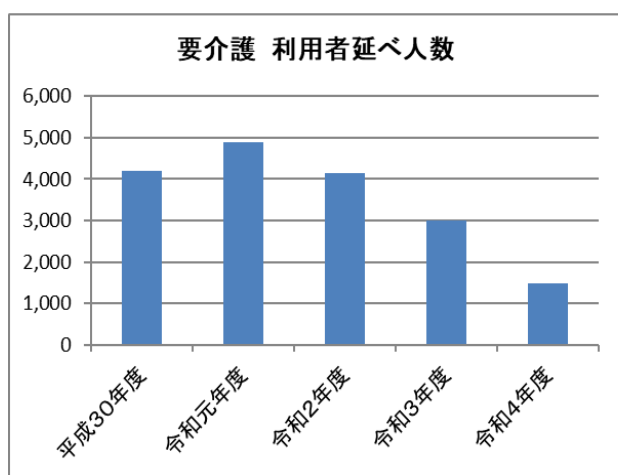


表2 サービス別状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	
サービス別 利用人数	入浴	243	224	217	219	180	153	129						1,365
														0
	個別 機能 訓練													0
														0
	機能 訓練													0
														0
	運動 機能													0
		20	19	21	19	11	9	4						103
	食事	257	237	235	232	201	172	137						1,471
		22	21	21	22	14	12	6						118

表3 年齢別状況

	64歳以下	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90～94歳	95歳以上	合計	平均年齢	最低年齢	最高年齢
男性			3		4	1			8	78.4歳	70歳	86歳
							1		1	90.0歳	90歳	90歳
女性		2		2	4	7	2	6	23	87.0歳	69歳	98歳
				1	1	2			4	83.3歳	78歳	88歳
合計	0	2	3	2	8	8	2	6	31	84.8歳	69歳	98歳
	0	0	0	1	1	2	1	0	5	84.6歳	78歳	90歳

※表1・2・3の下段(網掛け部分)は、総合事業(第1号通所介護事業)の対象者です。

② 職員の研修

- ・職員研修(内部) 6名(延べ24名)(開催回数4回)

③ 利用料の減免の状況

社会福祉法人等減免の該当者はいませんでした。

④ 実習生等の受入れ

- ・在宅看護論実習(小樽看護専門学校) 6名
- ・介護現場実習(北海道高等聾学校) 1名

3. 中部地域包括支援センター

・新規相談件数は2年続けて増加し、特にご家族からの相談が多く寄せられました。コロナ禍により高齢者の外出や交流の機会が減ったことで、運動機能低下や認知症等、心身の健康面において様々な影響を受けたことが要因と考えます。

相談内容は、介護保険サービスと認知症、医療介護連携に関する内容が増加しました。また、高齢者と一緒に生活されている家族に要因がかることで、課題が複雑・複合化しているケースが多くなっていることから、行政、医療、介護・障害福祉等の多職種における重層的な連携による支援の必要性が一層高まっています。

・コロナ禍において、グループホームやデイサービスなどの地域密着型事業所が開催する運営推進会議においては書面で参加し、各研修会にはオンラインを活用することで参加することができました。また、当センター独自で開催している月1回の健康体操教室は、感染症対策に留意しながら活動を継続しています。

・広報活動ではブログや広報誌による介護保険事業や当センターの業務内容の紹介のほか、グループホームの空き状況の照会を行っており、居宅介護支援事業所等からの問合せに対応しています。また、SNSを活用して、体操教室の動画配信や開催案内を発信しています。地域版介護予防フェアとして「ほたる縁日」を開催し、地域包括支援センターの周知活動にも努めました。

・高齢者等の権利擁護に関わる相談対応については、小樽・北しりべし成年後見センターや他職種と十分な連携が図れるよう情報の共有に努めています。

【担当地区(町名)】

港町、堺町、東雲町、相生町、山田町、花園、色内、稲穂、富岡、緑、錦町、豊川町石山町、手宮、末広町、梅ヶ枝町、清水町、長橋1・2丁目 以上18地区

事業内容

① 総合相談支援事業

高齢者が住み慣れた地域で安心して生活ができるよう、地域の高齢者の多岐にわたる相談を受け、生活実態等の把握を行い、適切に関係機関等やサービス利用につなげています。

毎週火曜日、木曜日に事例検討会議を開き、各専門職が対応している相談事例の情報を共有することで、円滑に業務が遂行できるように努めています。

② 権利擁護事業

高齢者虐待では、認知症高齢者が同居の孫から暴力を受けた事例や、親戚からの金銭の要求に対し、お金を渡し続けたことで生活困窮する事例がありました。発生要因としては本人や家族に発達障がい・精神疾患が疑われる等、複合的な問題を抱えているケースがあり、緊急時には警察や行政との協力が必要な場合も増えています。各専門機関との連携を図りながら対応を進めることが今後も必要です。

③ 介護予防事業

現在、自主運営している地域版介護予防教室については、コロナ感染症予防を図りながら継続的なフォローを行い、運営が滞らないよう支援しました。例年開催している「ほたる縁日」は、長橋なえぼ公園にて園内の散策や栄養講話を実施し、フレイル（虚弱）予防について理解を深めました。

④ 認知症対応事業

認知症地域推進員活動として、小樽オレンジかふえへ訪問し、活動状況把握に努めました。また、若年性認知症の本人及び家族の方に対してライフステージに合わせた個別支援を重点的に行いました。

認知症初期集中支援チームは、1件稼働しました。認知症サポート医と協力し、対象者を早期受診及び診断に結び付けることができました。

⑤ 包括的支援事業

予定していた介護支援専門員研修はZoomを利用して中部圏域の居宅介護支援事業所に対し、高齢者虐待について学んでいただきました。

地域ケア会議（多数回型）においては、コロナ禍で集合できない状況でも書面開催により実施することができました。

⑥ 生活支援体制整備事業

第2層生活支援コーディネーターの活動として、高齢者の移動支援をテーマに、石山町をモデル地域として試験運行を夏・冬季に実施しており、次年度へつながる活動ができました。

⑦ 高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業

モデル事業として受託し、75歳以上の骨粗しょう症性骨折歴のあるハイリスク者に対して、受診勧奨を行いました。

また、市内の地域版介護予防教室のサポーター及び参加者に対してフレイルの健康教育を実施し、運動、食事、社会参加の重要性について講話をしました。

⑧ 研修会・セミナー等への参加

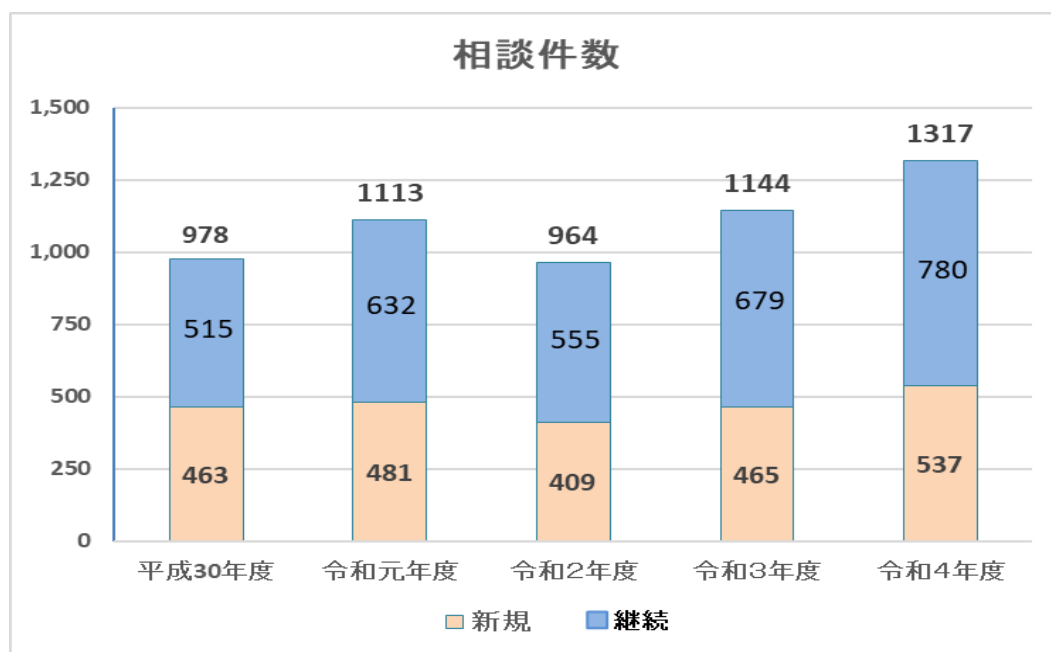
今年度も職員のスキルアップを図るため、Zoom等のオンライン研修会やセミナーに積極的に参加しました。

(1) 相談件数・内容等

① 相談件数

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
相談件数	978	1,113	964	1,144	1,317
新規	463	481	409	465	537
継続	515	632	555	679	780

相談件数は新規・継続ともに増加傾向にあり、特に別居している家族からの相談が多く寄せられました。



② 相談形態別の件数及び相談者区分とその件数（新規相談のみ）

相談形態	件数
来 所	69
電 話	448
訪 問	13
その他	7
合 計	537

相談者区分	件数
本人	96
家族	201
介護支援専門員	23
介護サービス事業者	18
行政関係者	48
医療機関	86
民生委員	6
近隣・知人	21
その他	38
合 計	537

③ 相談内容（新規件数 重複あり）

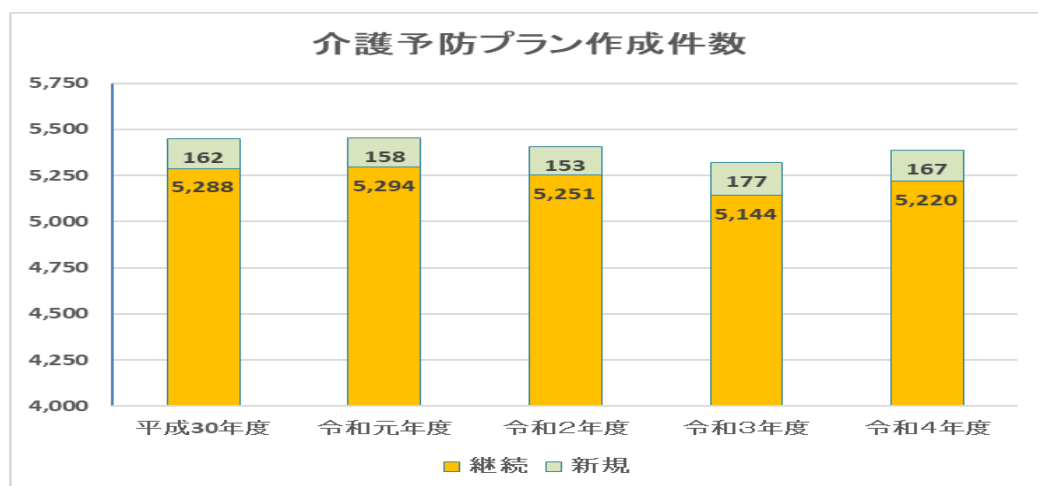
内容 \ 年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
介護保険サービス	379	347	291	375	395	
その他保健・福祉サービス	19	23	25	24	22	
権利擁護	虐待	9	6	4	6	6
	成年後見制度	1	2	1	2	2
	消費者被害	0	1	0	1	0
	その他	0	0	1	3	2
介護予防・健康づくり	7	5	4	1	3	
医療・疾病	48	47	40	42	50	
生活・住居・家族問題	91	103	55	70	93	
ケアマネジメント等	6	11	1	8	11	
認知症	41	48	48	55	66	
医療・介護連携	19	28	23	15	62	
その他	25	35	24	22	50	
合計	645	656	517	624	762	

認知症の相談が増加していることから、コロナ禍により人とのつながりが希薄になったことで、認知機能が低下したことが要因と考えられます。

(2) 介護予防プラン作成状況

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
新規	162	158	153	177	167
継続	5,288	5,294	5,251	5,144	5,220
合計	5,450	5,452	5,404	5,321	5,387

過去4年分と比較し大きな変動はなく、ほぼ横ばいに推移しています。



(3) その他の業務及び件数

業務名	件数
① 地域密着型事業所運営推進会議	38
② 地域ケア会議	3
③ 多職種連携に係る会議	4
④ 認知症チーム員部会	0
⑤ 生活支援コーディネーターに係る活動	87
⑥ 認知症地域支援推進員に係る会議（カフェ参加含む）	11
⑦ 在宅医療・介護連携推進に係る会議、相談業務	62
⑧ 広報活動（出前講座開催・ブログ・広報誌発行）	29
⑨ 研修会・セミナーへの参加	21
⑩ 包括連携に係る会議	24
⑪ その他の活動	11

[4] ボランティア・市民活動の推進

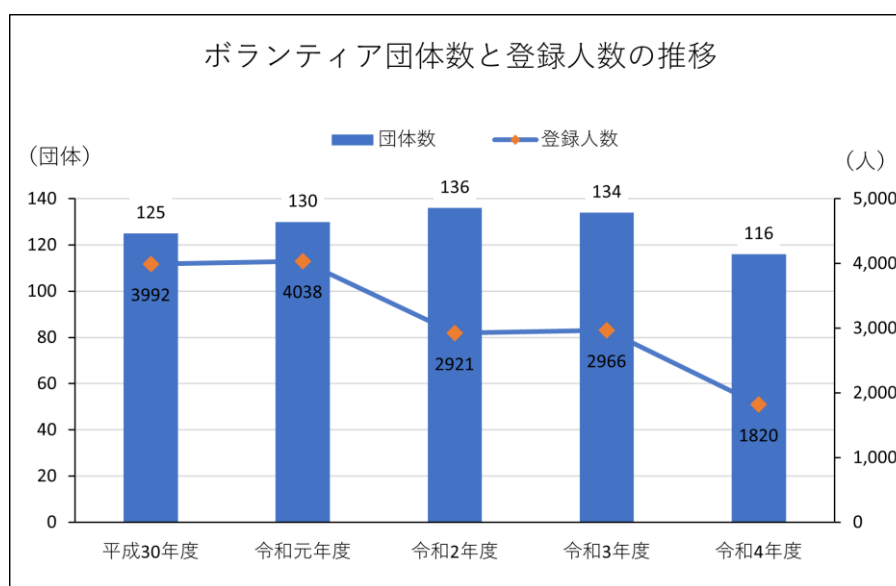
小樽市ボランティア・市民活動センターでは、地域住民主体の住みやすい街づくりを目指し、市内のボランティア・市民活動団体と協働しながら、下記の事業に取り組みました。

1. ボランティアの相談、登録及び紹介

(1) ボランティア活動希望者やボランティア団体の相談対応及び登録業務

ボランティア・市民活動に関する各種相談に対応するとともに、市内の活動の推進に努めました。

コロナ感染症の影響を受け、令和2年度から活動を再開することなく解散する団体もあり、登録団体数、人数は減少しています。



2. ボランティアの育成及び普及・啓発

(1) ボランティアポイント制度の実施

昨年度から開始したボランティアポイント事業、通称「たるボラポイント」事業では、活動に応じて付与したポイントを、500ポイントから商品券と交換いたしました。本年度は、対象となるボランティア活動、講座等に参加された方へ、下表のとおりポイントを付与しました。

対象活動	参加人数		付与ポイント		備考
	令和3年度	令和4年度	令和3年度	令和4年度	
配食ボランティア	55	51	219,100	200,500	1回の配食につき100ポイントを付与
福祉除雪ボランティア	1	17	500	33,000	1世帯の除雪につき500ポイントを付与
学校支援ボランティア	20	22	26,500	37,500	1クラスの支援につき500ポイントを付与
ボランティア講座への参加	47	31	4,700	3,100	1回の講座参加につき100ポイントを付与
カレンダーリサイクル活動の参加		10		5,500	1回の参加につき500ポイントを付与

(2) 総合的な学習の時間への協力

市内の小中学校の「総合的な学習の時間」内で、本会職員が講師となり、車椅子体験、高齢者擬似体験、視覚障がい擬似体験等を通じ、児童、生徒に対する福祉教育に協力しました。

コロナ感染症の影響で校外学習等ができていなかったこともあり、感染状況が落ち着いた時期に集中して依頼がありました。

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
学校数	7	11	5	7	8
クラス数(延べ)	25	44	11	21	28
児童・生徒数	826	1,442	370	612	760

(3) ボランティア講座等の開催

ボランティア・市民活動の普及を目的に、講座、講習会を開催しました。

講座・イベント名	開催日	参加人数	講座内容
災害ボランティア講座 ～より実践的な学びのために～	7月5日(火)	31	講師：一般社団法人Wellbe Design 理事長 篠原 辰二 氏 「小樽市災害ボランティアセンター設置・運営マニュアル」に沿った内容で、より具体的な内容で災害ボランティアについて学ぶ。
学校支援ボランティア講習会	9月16日(金)	10	講師：本会職員 小中学校の「総合的な学習の時間」において福祉体験を行う際に、子どもたちの見守りなどを行う「学校支援ボランティア」の活動内容を学ぶ。

(4) カレンダーリサイクル活動

協力企業等から送付いただいた余剰カレンダーを、市内の高齢者施設等に寄贈する「カレンダーリサイクル活動」を実施いたしました。日本各地から送られてくるカレンダー等の量が、配布数を大きく上回る年が続いてきたため、送付いただく数に上限を設けたことと、年明けの受入れを控えたこと、またコロナ感染症の流行などの要因が重なり、令和4年度の協力企業数は減少しています。令和4年度は、新しい試みとして、届いたカレンダー等を仕分ける作業と、受け取りに来られた施設の方へのお渡しを、市内の高校生ボランティア（双葉高校、潮陵高校、桜陽高校）にお手伝いいただきました。配布数等は、下表のとおりです。

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
協力企業等(件)	111	97	85	44	27
配布施設等(件)	31	26	25	22	28

(5) ボランティアセンター情報の発行

市内のボランティア・市民活動情報等を発信する紙媒体「ボランティア・市民活動センター情報」を発行いたしました。

(6) SNS等を通じた定期的な情報発信

本会 WEB ページ、「たる CAN！」アプリ、SNS 等を通じ、オンラインで迅速なボランティア・市民活動情報を発信いたしました。また、アプリを利用したボランティア募集、マッチングを行いました。

3. ボランティア・市民活動に必要な調査、研究

職員の資質向上のための研修会に、主にオンラインで参加いたしました。

4. ボランティア・市民活動団体への協力及び支援

小樽市を拠点とするボランティア・市民活動団体等の活動支援を目的とし、助成事業を実施しました。

年度当初に1回目、コロナ感染症が落ち着き始めた秋頃に予算の範囲内で2回目の募集を実施し、運営委員の審査により助成額を決定しました。各団体の助成額は、下表のとおりです。

団体名		助成額	団体名		(円) 助成額
1	朝里遺産の会	150,000	12	NPOシニアライフサポート協会小樽	25,000
2	小樽フラワーマスター連絡協議会	150,000	13	国際スポーツ雪かき選手権実行委員会	75,000
3	親子ひろば るんるん	120,000	14	おたる市民とみどりをつなぐ会	40,000
4	たるBOOK	120,000	15	リラの会	140,000
5	特定非営利活動法人 北海道鉄道文化保存会	100,000	16	フラワーパーク桂岡	35,000
6	ウェルカム・ガーデン	150,000	17	小樽朗読友の会	70,000
7	特定非営利活動法人 歴史文化研究所	100,000	18	小樽住ノ江火の見櫓をまもる会	50,000
8	おたるエデュケーション	110,000	19	銭函cat's eye	30,000
9	小樽桜陽高等学校ボランティア委員会	4,800	20	小樽プライド 委員会	50,000
10	小樽市立朝里小学校	32,000	21	Cat life support 小樽	50,000
11	浅草橋オールディーズナイト実行委員会	50,000			
助成額合計					1,651,800

5. ボランティア・市民活動関係団体との連携及び連絡調整

小樽市ボランティア・市民活動センター登録団体の活動周知の協力や、他団体への助成申請支援を行いました。

6. ボランティア保険の取扱い

ボランティア・市民活動団体を対象に、活動中の事故等を補償する保険加入事務を行いました。各保険の加入状況は以下のとおりです。

保険種別	加入状況
ボランティア活動保険	1,246 (人)
ボランティア行事用保険	140 (件)
福祉サービス総合補償	8 (件)
送迎サービス補償	1 (件)

7. その他ボランティア・市民活動に必要な事業

ボランティア・市民活動センターの運営に対し、さまざまな立場の有識者から、広く意見を伺うことを目的とし、下表のとおり運営委員会を開催しました。

承認日・開催日	議題等
4月26日(火)	令和4年度ボランティア・市民活動助成事業 一次審査・最終審査
7月11日(月)	令和3年度ボランティア・市民活動センター事業報告及び収支決算等について
9月22日(木)	令和4年度ボランティア・市民活動助成事業(再募集) 一次審査(書面開催)
10月5日(水)	令和4年度ボランティア・市民活動助成事業(再募集) 最終審査(書面開催)
3月23日(木)	令和5年度ボランティア・市民活動センター収支予算及び事業計画等について

8. 点字図書館の管理運営

小樽市の指定を受けた指定管理者として、管理運営を行いました。視覚障がいの方々に、より多くの点字・録音図書を提供することに努めました。

(1) 図書の製作・貸出事業

全国の視覚障がいの利用者を対象として実施しました。製作はボランティアの協力を得て取り組み、貸出しは「サピエ」(視覚障がい者情報総合ネットワーク)の利用により、相互貸借のほか、図書のダウンロード利用も行っています。

令和4年度より、ダウンロード数を実利用数から延べ利用者数へ変えたため、録音のダウンロード数が大幅に増加しています。

製作・貸出等の状況 (タイトル数)

		令和3年度	令和4年度
点字	貸出	86	67
	ダウンロード	2,871	2,054
	製作	40	47
	蔵書	1,597	1,644
録音	貸出	3,912	3,434
	ダウンロード	54,653	121,752
	製作	86	129
	蔵書	5,879	6,008
テキストデイジー	ダウンロード		870
	製作		10
定期刊行・ニュース	貸出	3,844	5,508
	製作	158	293
合計	貸出	7,842	9,009
	ダウンロード	57,524	124,676
	製作	311	479
	蔵書	7,476	7,652

登録者数(個人)

	令和3年度	令和4年度
市内	51	52
道内	48	48
合計	99	100

登録者数(団体)

	令和3年度	令和4年度
点字図書館	87	87
公立図書館	237	242
合計	324	329

(2) プライベートサービス事業

日常生活において必要とする生活関連資料及び個人利用に限定される図書等の制作を目的として実施し、19件の利用がありました。

(3) 各団体からの依頼事業

小樽市の各部局から依頼される、広報誌(広報おたる・市議会だより)、パンフレットなどのほかに、視覚障がい者団体から依頼されたものの点訳及び音訳を行いました。

[5] 生活困窮者自立支援

平成27年度から全国一斉に展開された生活困窮者自立支援事業は、本市では市が実施主体となり、小樽市福祉総合相談室「たるさぼ」を開設し支援活動を行っています。本会は、相談支援事業のほか、就労支援事業も受託し、相談員3名が市や就労準備支援事業の委託を受けている民間企業との協働の下、相談者の課題解決に向けての支援に努めました。

また、相談をとおして、緊急で経済的な支援を要する世帯への貸付事業、食料品等の物資支援事業に取り組みました。このほか、民間の寄付金を財源に、子育て世代で困窮している世帯に対するミルクや紙おむつ等の給付、小学校、中学校及び高等学校への進学、就学に必要な経費の一部を支援する子育て家庭支援事業も実施し、幅広く緊急的に困窮している世帯の支援を行いました。

1. 相談支援事業（小樽市受託事業）

今年度は家計改善支援事業にも力を入れ、困窮状況に陥っている世帯の家計改善に尽力しました。昨年度、コロナ感染症拡大の影響により中止していた出張相談会は、関係機関の協力もあり、今年度は実施することができました。次年度も引き続きアウトリーチの活動として、開催を予定しております。また、たるさぼ内での相談に加えて、来所できない方への訪問は状況を見ながらできる限り対応し、関係機関との連携も図りながら、適切な支援へとつなげました。

事業の周知に当たっては、広報誌「たるさぼ通信」の発行と、ブログやFacebookを活用し情報発信に努めました。また、本事業においてソーシャルワーク実習生を受け入れ、社会福祉士の育成に取り組んだところです。

(1) 相談件数（延べ件数）

※実件数：211件

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
①来所	461	397	955	822	578
②電話	1,502	1,690	1,979	1,999	1,614
③訪問	265	288	165	195	241
④その他	0	0	0	0	0
計	2,228	2,375	3,099	3,016	2,433

(2) 相談者の区分（延べ件数）

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
①本人	1,327	1,285	2,191	2,125	1,421
②家族	148	165	107	108	129
③福祉関係者	340	458	304	294	397
④行政関係者	293	372	407	338	341
⑤医療機関	57	43	43	58	44
⑥民生委員	6	6	2	1	3
⑦近隣・知人	12	4	4	3	1
⑧その他	45	42	41	89	97
計	2,228	2,375	3,099	3,016	2,433

(3) 相談内容(重複あり) (延べ件数)

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
①就労困難	826	974	896	735	595
②経済的困窮	1,526	1,243	2,559	2,218	1,694
③疾病	306	168	147	186	277
④その他	365	350	262	281	335
計	3,023	2,735	3,864	3,420	2,901

2. 就労支援事業

令和3年度より小樽市から受託しており、事業の実施に当たっては、企業開拓や企業訪問を積極的に行い、たるさぼにおける就労支援についての理解を深める活動を行いました。また、職場定着支援も実施し、相談者と企業が就労後に抱える問題解決に努めました。

- (1) 相談件数 307件【来所:72、電話:204、訪問:10、その他(同行等):21】
- (2) 相談者 307件【本人:201、家族:7、福祉関係者:4、行政関係者:35、企業:56、その他:4】
- (3) 相談内容(重複あり) 326件【就労困難:280、経済的困窮:15、疾病・障がい:8、その他:23】

3. 生活困窮者自立支援資金貸付事業(原資 小樽市交付金)

貸付限度額10万円・貸付利子 無利子・償還回数 20回以内

本資金は、たるさぼからの支援を受ける生活困窮者で、緊急に経済的な支援を要する世帯に対し貸付を行います。その多くは、転職や再就職する中で、公共料金等の滞納を抱え、給与や年金が支給されるまでの間、一時的に生活費に不足が生じることによるものです。

年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
貸付実数(人)	27	14	22	12	12
貸付累計額(円)	788,000	347,000	450,000	237,800	424,000
償還実数(人)	27	14	20	11	11
償還累計額(円)	748,000	342,000	381,000	207,800	237,000
償還率(%)	95%	99%	85%	87%	56%
滞納者(人)	1	0	2	1	2
不納欠損(円)	10,000	0	35,000	0	14,000

※令和4年度の不能欠損分(令和元年度貸付5,000円を含む)

4. 生活困窮者物資支援事業（原資 小樽市社会福祉協議会）

歳末たすけあい義援金を財源に、緊急対応が必要と判断した世帯に対し、生活維持のために必要不可欠な物資を購入しました。その他 19 世帯へ食料品の給付を行いました。

		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
支援世帯数(件)	給付	—	—	—	19	19
	購入	48	32	29	19	19
支援累計額(円)		211,579	134,046	132,419	75,965	86,926
支援内容[重複あり](件)	食料品	41	31	22	12	12
	灯油	1	3	11	7	7
	衣料品	7	0	0	0	0
	その他	4	3	2	0	2

5. 令和4年度子育て家庭支援事業（令和3年9月1日から実施） 財源：愛情銀行

(1) こうのとりのプレゼント

概ね2歳未満の子ども一人当たり8,000円を上限に紙おむつ、ミルク等養育に必要な物資を購入し支給しました。

支援数		支援内容			支援金額計
件数	人数	おむつ	ミルク	その他(おしりふき等)	
8	12	29	18	8	74,794円

(2) 進学等応援資金

子ども一人につき100,000円を限度に入学及び進学に必要な資金並びに特別活動及び課外活動に必要と認める資金の給付を行いました。

支援数		支援内容	支援金合計
件数	人数		
7	7	スポーツコースに通う高校生のウェア等、パソコン(検定等資格取得に必要)、高校進級に必要な諸納金、制服	494,376円

[6] 緊急生活救援資金等の貸付支援

経済的な自立と生活の安定を目的に、生活困窮者自立支援事業による貸付に加えて、やむを得ない不時の緊急出費により困窮する世帯に対し緊急生活救援資金貸付事業を行うとともに、低所得者、障がい者、高齢者の世帯に対して北海道社会福祉協議会が行っている生活福祉資金の窓口となり貸付を実施しました。

今後も引き続き貸付や償還業務などにおいて適切な支援や指導に基づき、円滑かつ効果的な事業運営に努めてまいります。

1. 緊急生活救援資金貸付事業(原資 小樽市社会福祉協議会)

貸付限度額 5万円・貸付利子 無利子・償還回数 10回以内

(1) 使途別貸付件数及び金額の状況 (単位：円)

使途別	年度別		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		昨年度との比較増額	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
生活費	23	198,000	15	142,000	8	73,000	7	58,000	17	165,000	10	107,000		
家具什器購入費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	1	10,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	24	208,000	15	142,000	8	73,000	7	58,000	17	165,000	10	107,000		

(2) 償還状況 (単位：円)

現年度	年度別	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	昨年度との比較増減
		現・過	現・過	現・過	現・過	現・過	
現年度	償還計画額	190,000	117,000	58,000	48,000	135,000	87,000
	償還額(A)	185,000	114,000	45,000	48,000	110,000	62,000
	償還率	97.4%	97.4%	77.6%	100.0%	81.5%	△18.5%
過年度償還額(B)		45,000	30,000	32,000	69,000	20,000	△49,000
合計		230,000	144,000	77,000	117,000	130,000	13,000

2. 生活福祉資金貸付事業(北海道社会福祉協議会委託事業)

貸付限度額 資金種別による・貸付利子0～3%・延滞利子3%～10.75%・償還期間 1ヵ月～20年以内

令和2年3月25日から始まったコロナ感染症の影響による生活福祉資金制度の特例貸付(緊急小口支援資金・総合支援資金(生活支援費))が令和4年9月30日をもって受付を終了しました。貸付条件が緩和されたことで、必要な世帯に速やかに貸付が実行された半面、十分な相談支援がなされないまま貸付となり、将来的に借受人の償還完了までの生活への負担が懸念されていましたが、一定の条件を満たすことで免除申請(非課税と証明されている方や生活保護を受給した方等)や償還猶予申請を行うことができることとなりました。生活福祉資金制度の窓口として、貸付に至らない場合も必要な支援や関係機関へつなぐことを心がけ対応しました。

(1) 貸付状況 (単位：円)

年度	平成30年度		令和元年度			令和2年度			令和3年度			令和4年度		
	本則 決定 件数	金額	特例 申請 件数	本則 決定 件数	金額	特例 申請 件数	本則 決定 件数	金額	特例 申請 件数	本則 決定 件数	金額	特例 申請 件数	本則 決定 件数	金額
総合支援資金	2	602,000	0	0	0	957	0	386,392,000	787	0	471,324,000	90	0	50,280,000
福祉資金	16	4,224,000	28	8	1,934,000	879	6	162,570,000	353	6	65,336,000	95	12	22,678,000
福祉費	6	3,364,000	0	2	1,511,000	0	1	640,000	0	1	1,340,000		6	2,608,000
緊急小口	10	860,000	28	6	423,000	879	5	161,930,000	353	5	63,996,000	95	6	20,070,000
教育支援資金	8	7,024,000		4	4,791,000		5	4,952,000		9	10,617,000		8	13,723,000
不動産担保型生活資金	1	402,240		0	1,608,960		0	1,608,960		0	281,640		0	0
累計	27	12,252,240	28	12	8,333,960	1,836	11	555,522,960	1,140	15	547,558,640	185	20	86,681,000

(2) 償還状況 (単位：円)

年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
総合支援資金	949,139	1,015,620	1,648,444	698,600	5,445,632
福祉資金	2,960,931	1,790,863	3,402,229	3,626,841	8,398,730
福祉費	2,565,241	1,513,143	2,026,650	1,910,281	1,359,110
緊急小口	695,690	277,720	1,375,579	1,716,560	7,039,620
教育支援資金	12,355,487	11,744,402	12,140,752	10,917,094	9,453,412
災害援護資金	88,000	64,000	82,000	80,630	72,000
更生資金	405,176	465,500	31,900	58,882	23,800
離職者支援資金	490,716	445,000	744,178	433,600	653,048
療養・介護等	0	0	27,809	0	0
累計	17,249,449	15,525,385	18,077,312	15,815,647	24,046,622

(上記の償還状況は、元金、貸付利子、延滞利子を含む。)

※総合支援資金、緊急小口資金については、特例貸付(コロナ感染症の影響、休業等により収入の減少があり、緊急かつ一時的な生計維持のため貸付を必要とする世帯)を含んでいます。

[7] 関係団体等の支援及び連携による活動

市民の自主的活動をとおして福祉コミュニティづくりと地域福祉の増進を図るため、高齢者福祉活動や町会などへの支援を行いました。

この支援事業は、赤い羽根共同募金の助成金及び篤志寄附を財源としています。

また、例年実施していた社会福祉法人懇話会しあわせネットワーク・おたる（社福懇）の事業は、コロナ感染症の影響で、前年度に続き実施できませんでした。

1. 老人福祉活動への支援

令和4年度(第58回)老壮大学への支援（共催）をしました。

2. 町会への支援

小樽市総連合町会の各事業への助成
町会台帳作成経費の助成 149 町会

3. 災害遺児家庭及びひとり親家庭等への支援(愛情銀行・歳末たすけあい義援金)

本年度寄付金額 7件/783,000円

(1) 災害遺児家庭への支援

- ① お祝い金 3世帯、80,000円
災害により親を亡くした児童等に入学、進学祝金を支給しました。
- ② お見舞金 3世帯、100,000円
災害に遭った世帯の児童等にお見舞金を支給しました。

(2) 小樽市ひとり親と寡婦の会への支援

こども食堂事業への助成 40,000円

4. 社福懇関係事業

社福懇には、以下の3委員会が置かれています。各委員会の活動を通じ小樽市全体の福祉・介護に関する啓発、福祉人材の育成、地域の支え合いを推進する基盤づくりなどを目指していますが、令和4年度はコロナ感染症の影響で各委員会の活動はできませんでした。

- 福祉しごと委員会
- 地域づくり委員会
- 生活支援委員会

[8] 共同募金運動への協力

町会、民生児童委員協議会など関係団体のご協力のもと、小樽市共同募金委員会が実施した令和4年度共同募金運動に、市民の皆様から善意の寄附金が寄せられました。

本会では、例年と同様に共同募金運動に対し協力、支援を行いました。また、赤い羽根共同募金、地域歳末たすけあい運動から、本会が実施する事業に対し助成を受けました。

募金額、助成額等の概要は次のとおりです。

1. 赤い羽根共同募金運動 (運動期間：令和4年10月1日～12月31日)

本年度の赤い羽根共同募金の寄附金総額は9,103,313円でした。全道・広域使途計画分(5,106,313円)を除く地域使途計画分の3,997,000円が令和5年度の事業に助成されます。

本年度実施した事業の助成金は、令和3年度に寄せられた募金によるものです。本会で受けた助成額のうち、全道・広域使途計画分から400,000円を1事業4件に、市町村地域使途計画分から2,512,000円を9事業に充てました。

助成内訳表

(単位：円)

	事業執行者名	事業名	助成額
全道・広域助成	小樽市立山の手小学校 (令和2年度指定校)	学童・生徒のボランティア活動普及事業	100,000
	北海道小樽潮陵高等学校 (令和3年度指定校)		100,000
	小樽双葉高等学校 (令和3年度指定校)		100,000
	小樽市立朝里中学校 (令和4年度指定校)		100,000
	助成額合計		400,000
市町村地域助成	小樽市老壮大学運営委員会	老壮大学活動支援事業 (教材費等)	50,000
	小樽市総連合町会	自治会支援事業 (町会活動をする支援)	648,000
	小樽市老人クラブ連合会	高齢者の生きがいづくり推進事業	383,000
	小樽市社会福祉協議会	自治会支援事業 (封筒募金推進支援等)	440,000
		子どもの遊び場保守費支援事業 (公園の清掃等、保守・管理費用)	111,000
		ふれあい相談事業 (事業経費)	36,000
		ボランティア養成・研修・相談等 活動推進事業	580,000
	社協だより印刷・発行事業 (年4回発行)	244,000	
	配食関係者交流事業	20,000	
	助成額合計		2,512,000

2. 地域歳末たすけあい運動（運動期間：令和4年12月1日～12月31日）

本年度の地域歳末たすけあい運動の義援金の総額は、2,558,233円でした。

地域歳末たすけあい運動の助成は、本会が一次助成として全額を受け、一部を当年度事業（令和4年度）に、一部を翌年度事業（令和5年度）に充てています。

令和4年度は、令和3年度の義援金から翌年度事業として1,000,000円、令和4年度の義援金から当年度事業として1,563,200円の助成を受け、事業を実施しました。

令和3年度の義援金で実施した事業

（単位：円）

事業名・概要	助成額
小地域ネットワーク支援事業	600,000
福祉除雪サービス事業	200,000
生活困窮者支援事業	200,000
助成額合計	1,000,000

令和4年度の義援金で実施した事業

（単位：円）

事業名・概要	助成額
支援金贈呈事業	1,150,000
障がい児通所施設等への年末年始支援	413,200
助成額合計	1,563,200

3. 過去5年の募金額の推移表及びグラフ（参考）

（単位：円）

年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
赤い羽根	10,870,891	10,195,598	8,749,047	8,650,247	9,103,313
歳末たすけあい	5,757,130	5,015,442	2,622,393	2,089,615	2,558,233
世帯数	63,698	63,125	62,565	61,914	61,399

※世帯数は、各年度の12月末のもの

